

第2次君津市環境基本計画 における市民アンケート調査結果



君津市
マスコットキャラクター
きみぴょん

平成30年12月

君津市 市民環境部 環境保全課

目 次

1	市民アンケート調査の目的	P1
2	市民アンケート調査の概要と回収率	P1
3	一般用における集計結果	
(1)	回答者の性別【設問 1】	P5
(2)	回答者の年齢【設問 2】	P5
(3)	回答者の居住地域【設問 3】	P6
(4)	居住地域の環境【設問 4】	P6
(5)	回答者の居住年数【設問 5】	P7
(6)	関心のある環境問題【設問 6】	P8
(7)	環境問題に関連する知識の入手元【設問 7】	P9
(8)	ここ 10 年程度の環境の変化【設問 8】	P10
(9)	君津市の環境に対する満足度【設問 9】	P11
(10)	君津市の環境について、自慢に思うこと、大切にしたいところ、 子どもたちに残したいもの【設問 10】	P14
(11)	変化のあった動植物【設問 11】	P16
(12)	日常生活における環境問題への取組み【設問 12】	P18
(13)	君津市の環境について、かなり気になる（改善すべき）こと【設問 13】	P19
4	事業者用における集計結果	
(1)	産業分類【設問 1】	P20
(2)	従業員数【設問 2】	P20
(3)	事業所の所在地【設問 3】	P21
(4)	関心のある環境問題【設問 4～5】	P21
(5)	環境問題への取組み【設問 6～20】	P22
(6)	環境問題に取り組む理由【設問 21～22】	P24
(7)	環境問題に取り組む際の問題と取り組めない理由【設問 23～24】	P25
(8)	環境問題に取り組むにあたり、行政に期待する施策【設問 25】	P26
(9)	環境に関する意見・感想【設問 26】	P27
5	まとめ	P28

1 市民アンケート調査の目的

「君津市環境基本計画」は、君津市環境保全条例に基づき策定するもので、市民、事業者、市（行政）が互いに協力し、良好な環境を次の世代へ継承していくことを目的としている。

平成27年度から36年度までの10年間を計画期間とする第2次君津市環境基本計画では、本市の目指す環境像を「澄んだ空 清らかな水 緑あふれるまち きみつ」とし、その実現のための基本方針と具体的な取組みを示している。

また、第2次計画の進行管理においては、市民や事業者の関心のある環境問題、環境に対する満足度及び環境配慮行動の実施状況等を把握するため、おおむね3年に1回アンケート調査を実施し、当該調査結果を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うとしている。

2 市民アンケート調査の概要と回収率

市民アンケートについて下記のとおり実施した。調査は、調査対象に応じて「一般用（保護者）」、「一般用（公民館）」、「事業者用」の3種類に区分した。

調査結果の検討にあたっては、平成26年度に実施した前回の調査結果を参考に比較検証した。

(1) 一般用（保護者）

対象者：小学1年生、4年生及び中学2年生の保護者

調査期間：平成30年1月24日（水）から2月6日（火）まで

回収率：77.1%

設 問：環境に関する満足度、居住地の環境の変化及び日常生活における環境配慮行動の実施状況等

小中学校全体の回収率を表1に示す。また、その内訳を表2、3に示す。小学校は83.4%、中学校は65.5%となった。前回調査においては79.8%であり、また今回の目標回収率を80%と設定しており、おおむね達成できたといえる。

(表1) 小中学校全体の回収率

種別	配布数	回収数	回収率
小学校	1,227	1,023	83.4%
中学校	660	432	65.5%
合 計	1,887	1,455	77.1%

(表2) 小学校における回収率

地区名	学校名	配布数	回収数	回収率
君津地区	八重原小学校	90	79	87.8%
	南子安小学校	187	159	85.0%
	周西小学校	180	134	74.4%
	大和田小学校	103	93	90.3%
	坂田小学校	82	53	64.6%
	貞元小学校	101	86	85.1%
	周南小学校	136	128	94.1%
	北子安小学校	79	70	88.6%
	外箕輪小学校	45	32	71.1%
小糸地区	中小学校	70	54	77.1%
	小糸小学校	19	16	84.2%
清和地区	秋元小学校	19	17	89.5%
	三島小学校	11	6	54.5%
小櫃地区	小櫃小学校	50	43	86.0%
上総地区	久留里小学校	36	36	100.0%
	松丘小学校	10	9	90.0%
	坂畑小学校	9	7	77.8%
合 計		1,227	1,023	83.4%

(表3) 中学校における回収率

地区名	学校名	配布数	回収数	回収率
君津地区	君津中学校	186	107	57.5%
	周西中学校	71	53	74.6%
	周南中学校	68	41	60.3%
	周西南中学校	109	76	69.7%
	八重原中学校	75	59	78.7%
小糸地区	小糸中学校	73	39	53.4%
清和地区	清和中学校	15	15	100.0%
小櫃地区	小櫃中学校	30	14	46.7%
上総地区	久留里中学校	15	15	100.0%
	松丘中学校	11	10	90.9%
	亀山中学校	7	3	42.9%
合 計		660	432	65.5%

(2) 一般用（公民館）

対 象 者：公民館来館者

調査期間：平成30年1月24日（水）から2月20日（火）まで

回 収 率：32.5%

設 問：一般用（保護者）と同様

各公民館における回収率を表4に示す。回収率は32.5%となった。前回調査の31.3%は上回ったが、今回の目標回収率の50%を達成できなかった。なお、公民館では、設置したアンケートを自由に回答していただく方式で行ったことから、次回の調査については、アンケートの回答方法について検討する必要がある。

(表4) 公民館における回収率

地区名	学校名	設置数	回収数	回収率
君津地区	君津中央公民館	75	16	
	八重原公民館	75	43	
	周西公民館	75	38	
	周南公民館	75	34	
小糸地区	小糸公民館	75	10	
清和地区	清和公民館	75	39	
小櫃地区	小櫃公民館	75	1	
上総地区	上総公民館	75	14	
合 計		600	195	

(3) 事業者用

対象者：君津商工会議所会員 1,640 事業所から抽出した 400 事業所

調査期間：平成30年1月24日（水）から2月13日（火）まで

回収率：52.3%

設問：事業活動に伴う環境配慮行動の実施状況等

事業所からの回収率を表5に示す。回収率は52.3%となった。前回調査28.5%を大きく上回り、今回の目標回収率の50%を達成した。

(表5) 事業者用における回収率

産業分類	登録 事業者数	発送数	回収数	回収率
農林水産業	17	4	1	25.0%
鉱業（山砂採取を含む）	14	4	2	50.0%
建設業	361	88	45	51.1%
製造業（工業製品）	108	26	19	73.1%
製造業（食料品）	35	9	5	55.6%
運輸業	34	8	4	50.0%
小売業	252	61	27	44.3%
卸売業	46	11	7	63.6%
金融・保険・不動産業	99	24	11	45.8%
整備・修理業	57	14	9	64.3%
医療・福祉	45	11	8	72.7%
飲食店	241	59	22	37.3%
サービス業	296	72	39	54.2%
その他	35	9	5	55.6%
未回答			5	
合計	1,640	400	209	52.3%

3 一般用における集計結果

(1) 回答者の性別【設問1】

回答者の性別を図1に示す。

公民館利用者からの回答では男女差は小さかったが、小中学生の保護者からの回答ではほとんどが女性であった。

(図1) 回答者の性別



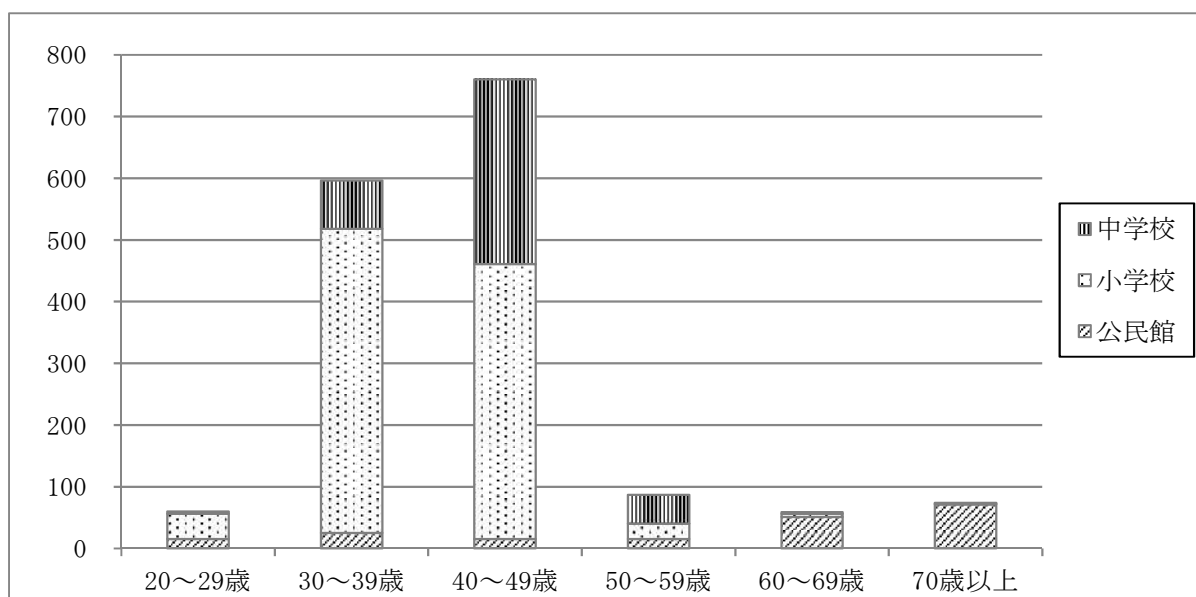
(2) 回答者の年齢【設問2】

回答者の年齢を図2に示す。

回答者の約8割が30歳から49歳であり、その多くが小学校と中学校での回答者であった。また、60歳以上の回答者のほとんどが公民館で回答した人であった。

(図2) 回答者の年齢

(単位：人)

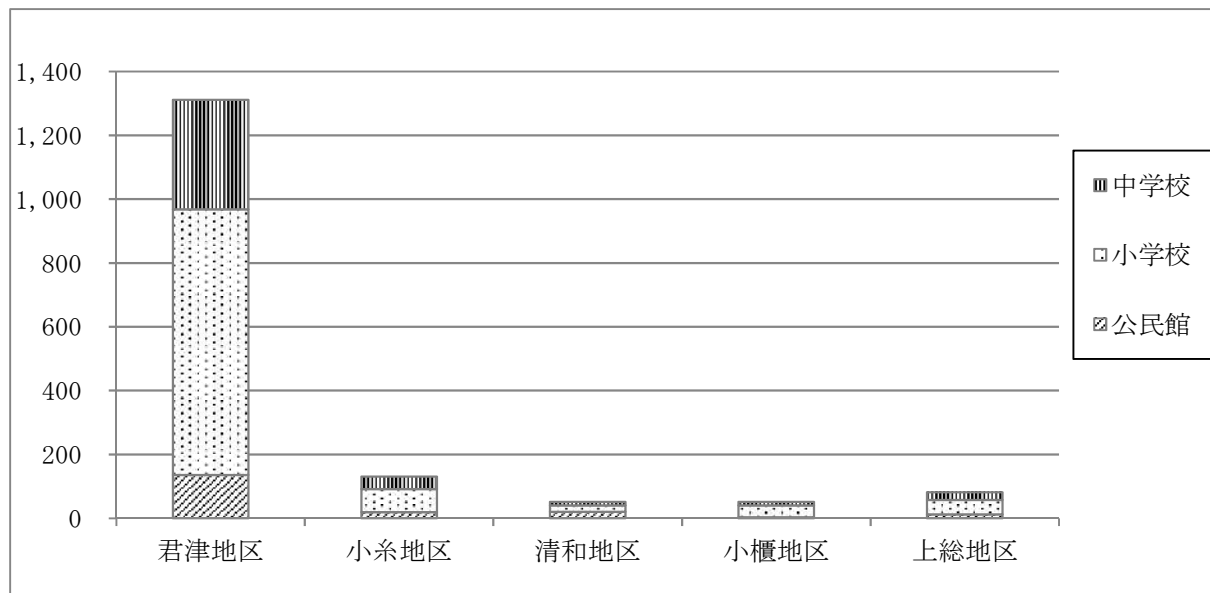


(3) 回答者の居住地【設問3】

回答者の居住地を図3に示す。君津地区が全体の8割近く占めていた。その他の地区においても一定数の回答が得られたが、小櫃地区の公民館の回答者が少なかった。

(図3) 回答者の居住地

(単位：人)

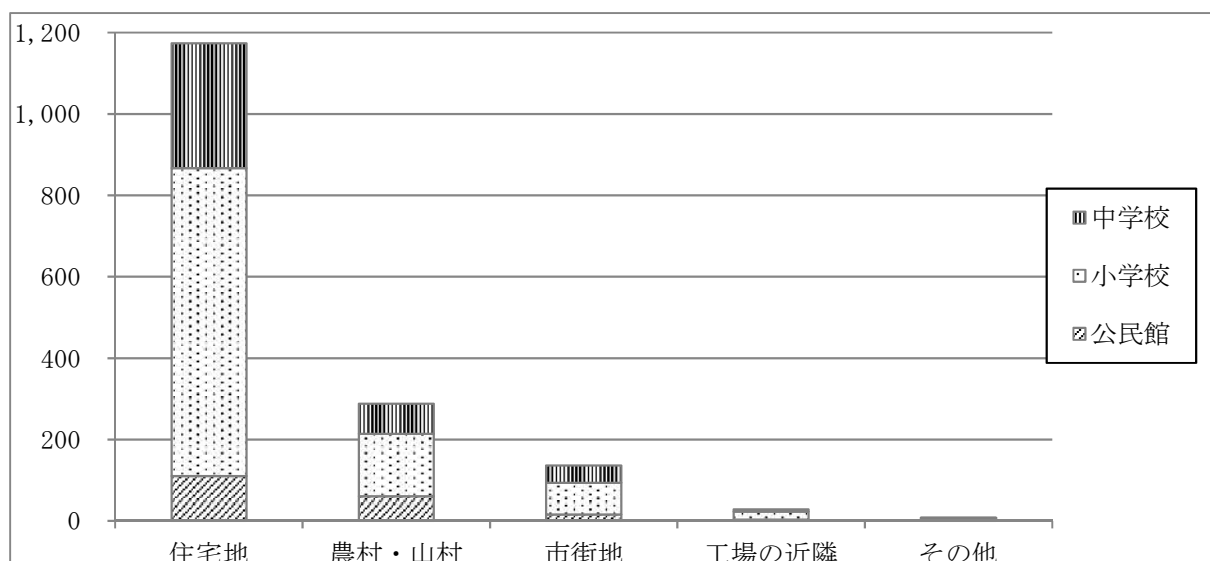


(4) 居住地の環境【設問4】

回答者の居住地の環境を図4に示す。「住宅地」が7割近く占めていた。また、「農村・山村」についても約2割の回答があった。

(図4) 居住地の環境

(単位：人)

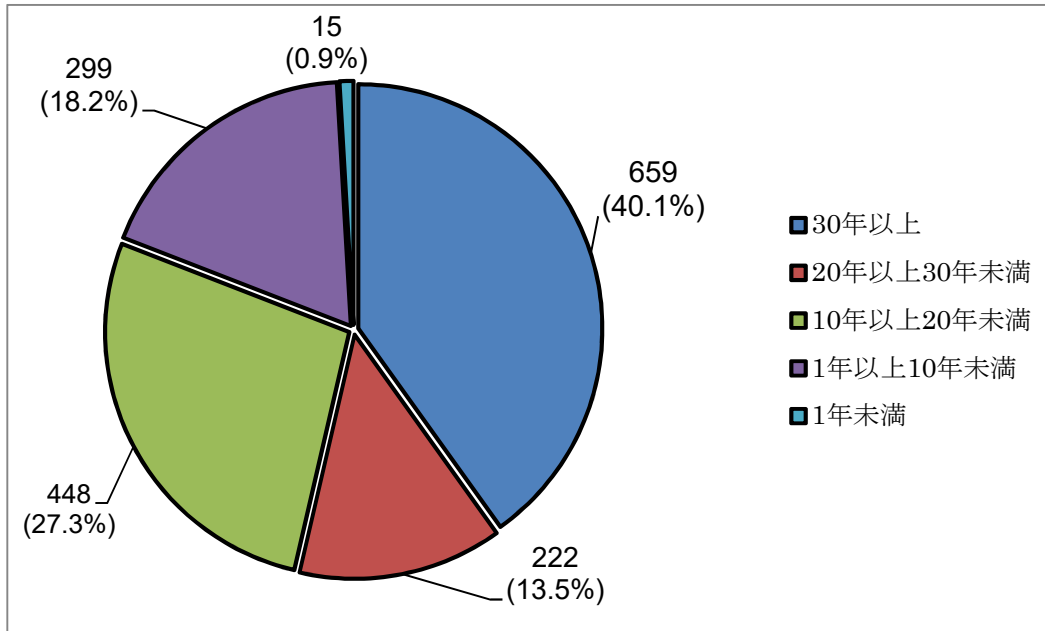


(5) 回答者の居住年数【設問5】

回答者の居住年数を図5に示す。回答者の半数以上が市内に20年以上在住していることから、本アンケートにおいて、君津市の環境の変化を捉えた意見が寄せられていると考えられる。

(図5) 回答者の居住年数

(単位：人)



(6) 関心のある環境問題【設問6】

回答者の関心のある環境問題について、前回(平成26年度)と今回の調査結果を図6に示す。

前回の調査結果と同様に今回においても「地球温暖化」の関心度が最も高かった。この要因としては、近年の記録的な猛暑や集中豪雨など、地球温暖化の影響による異常気象の発生が挙げられることから、引き続き、地球温暖化対策実行計画の策定により、対策を実施していく必要がある。

また、市民生活を営む上で密接な関係がある「河川・海等の水質汚濁」、「ごみの減量・リサイクル」、「騒音・振動」の関心度についても上昇した。

一方で、「放射能」、「PM2.5」は大幅に低下した。この要因としては、原発事故の発生から一定の期間が経過したこと、また近年、社会問題として以前ほど大きく取り上げられなくなったことから、市民の関心が低下したものと考えられる。

なお、原発事故以降、市が実施した放射線量測定の結果から、市民の健康に影響を与えるレベルのものでなく、PM2.5についても、平成25年度に俵田測定局を設置し測定しているが、これまで国が定めた環境基準を達成している。

「その他」の回答は主に次のようなものがあつた。

【大気汚染】

- ・ 野焼き及び家庭ごみの不適正な焼却による被害

【廃棄物処理】

- ・ 太陽光発電用パネルの不適正な廃棄

【生物多様性】

- ・ サル、シカ、イノシシ、ハクビシン及びヤマビル等の被害

【自然災害】

- ・ 地震、台風等による被害
- ・ 崖崩れ、山崩れによる被害

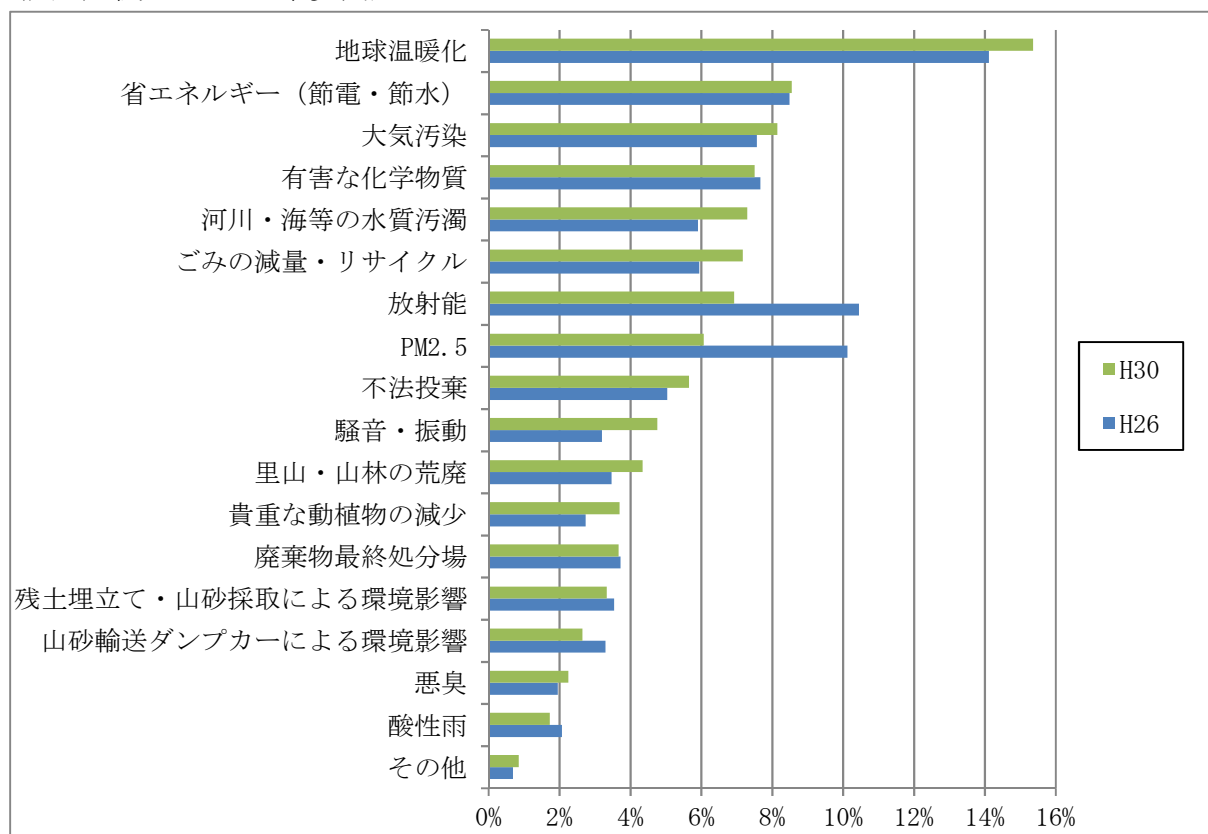
【化学物質】

- ・ フロン等の化学物質によるオゾン層の破壊

【エネルギー】

- ・ 原子力発電所、火力発電所の稼働に対する懸念

(図 6) 関心のある環境問題



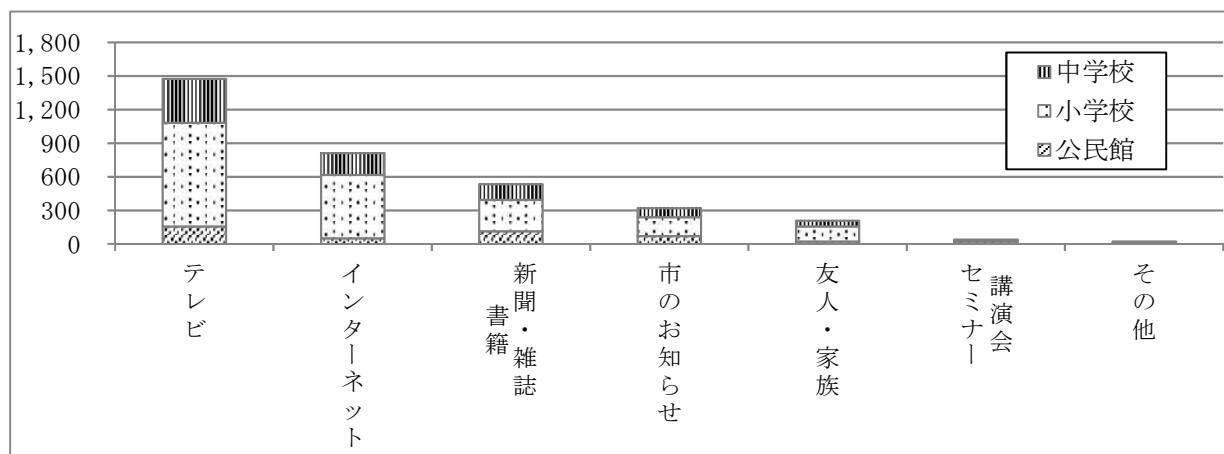
(7) 環境問題に関連する知識の入手元【設問 7】

環境問題に関連する知識の入手元を図 7 に示す。

「テレビ」と回答した人が最も多かった。次いで「インターネット」、「新聞・雑誌・書籍」、「市のお知らせ」の順に回答が多かった。回答者の多くが市街地や住宅地といった電気通信設備が整った環境に居住していることを反映した結果となったが、「市のお知らせ」を入手元としている人が一定数いることが分かったため、今後も市からの積極的な発信が求められる。

(図 7) 環境問題に関連する知識の入手元

(単位：人)

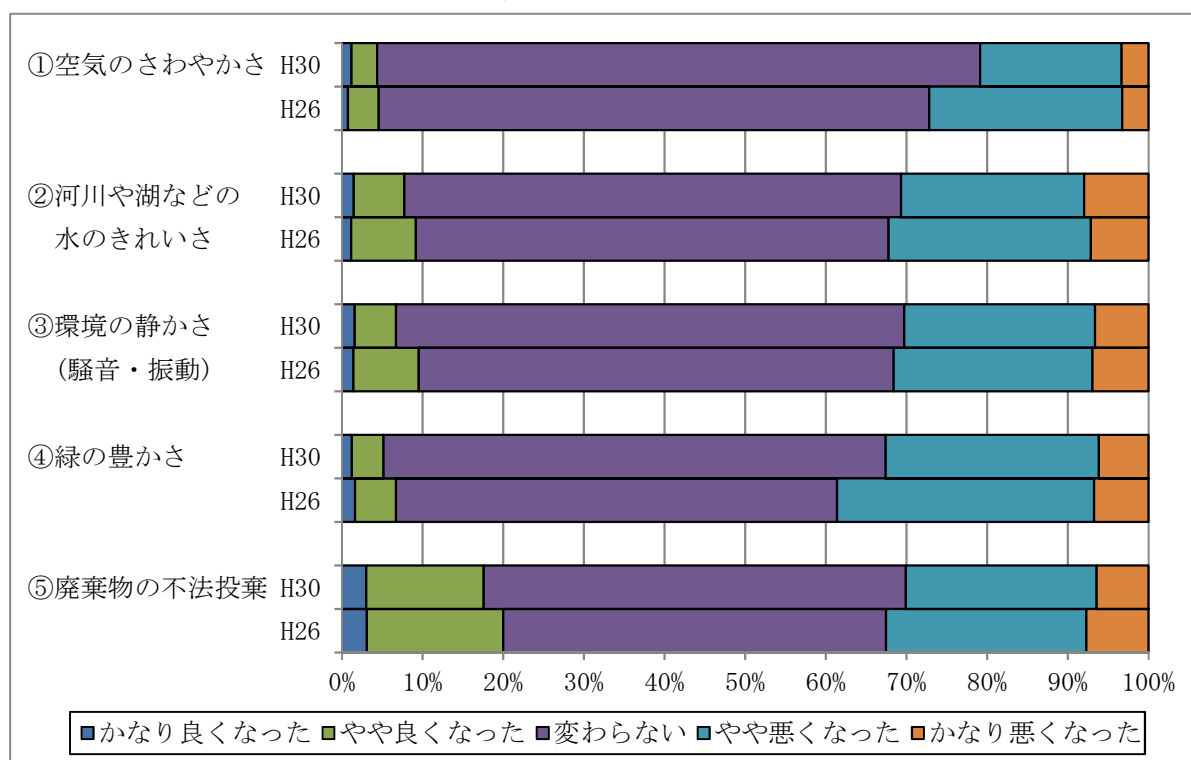


(8) ここ10年程度の環境の変化【設問8】

回答者の居住地において、ここ10年程度でどのような環境の変化があったか、「空気のさわやかさ」、「河川や湖などの水のきれいさ」、「環境の静かさ（騒音・振動）」、「緑の豊かさ」、「廃棄物の不法投棄」の5項目について、前回と今回の調査結果を図8に示す。

前回の調査と比較すると、すべての項目で「変わらない」の回答数が増加し、その割合が最も高いことから、近年で特に大きな環境の変化はないと推測される。

(図8) ここ10年程度の環境の変化



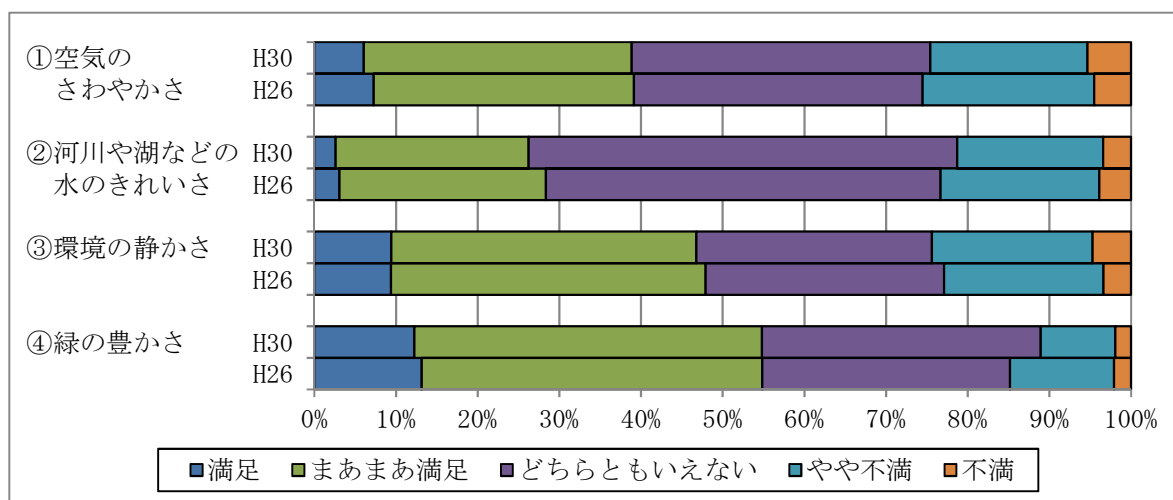
※ ⑤は、左から「かなり減った」「やや減った」「変わらない」「やや増えた」「かなり増えた」である。

(9) 君津市の環境に対する満足度【設問9】

君津市の環境について、「空気のさわやかさ」、「河川や湖などの水のきれいさ」、「環境の静かさ（騒音・振動）」、「緑の豊かさ」の4項目における満足度の変化を図9-1に示す。

前回と比較して回答割合に大きな変化は見られなかった。すべての項目で「やや不満」、「不満」よりも「満足」、「まあまあ満足」の割合が高く、その中でも「緑の豊かさ」は5割以上を占めており、市の環境に対する一定の満足が認められる。

(図9-1) 君津市の環境に対する満足度



「やや不満」、「不満」と回答した人の理由を図9-2～5に示す。

「空気のさわやかさ」は、臨海部に立地した工場群が発生源と見られる「工場の煙」と回答した人が最も多く、次いで山砂採取に伴うダンプの運行に起因した「自動車の排ガス」が多かった。

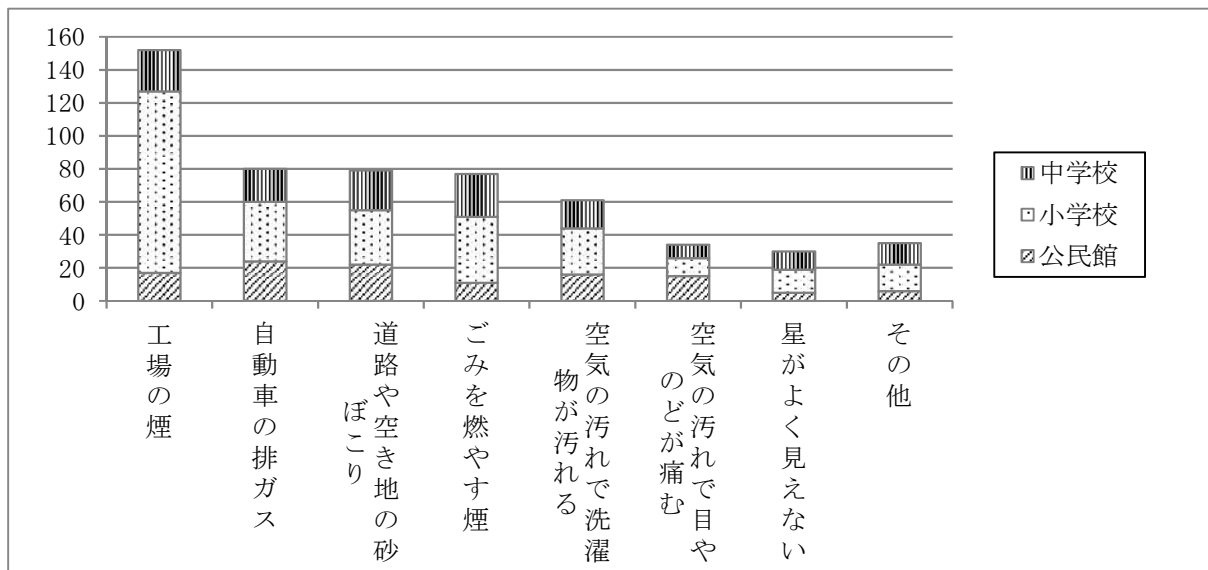
「河川や湖などのきれいさ」は、「ごみや浮遊物」と回答した人が最も多く、次いで「土砂によるにごり」、「家庭からの排水」となった。

「環境の静かさ（騒音・振動）」は、「自動車の騒音・振動」と回答した人が最も多く、次いで羽田空港の着陸便が本市上空を通過することによる「航空機の騒音」、また「犬や猫などの鳴き声」となった。

「緑の豊かさ」は、「山や森の緑が少ない」と回答した人が最も多く、これは山砂採取等に伴う景観への影響と推察される。次いで「公園や広場の緑が少ない」、「街路樹等の緑が少ない」となった。

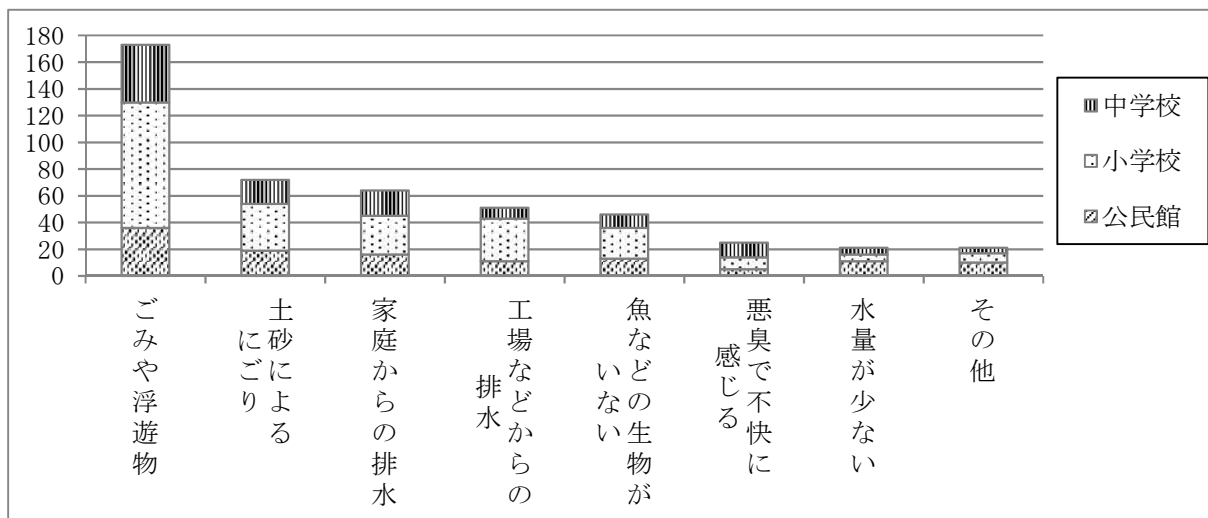
(図9-2) 不満の原因《空気のさわやかさ》

(単位：人)



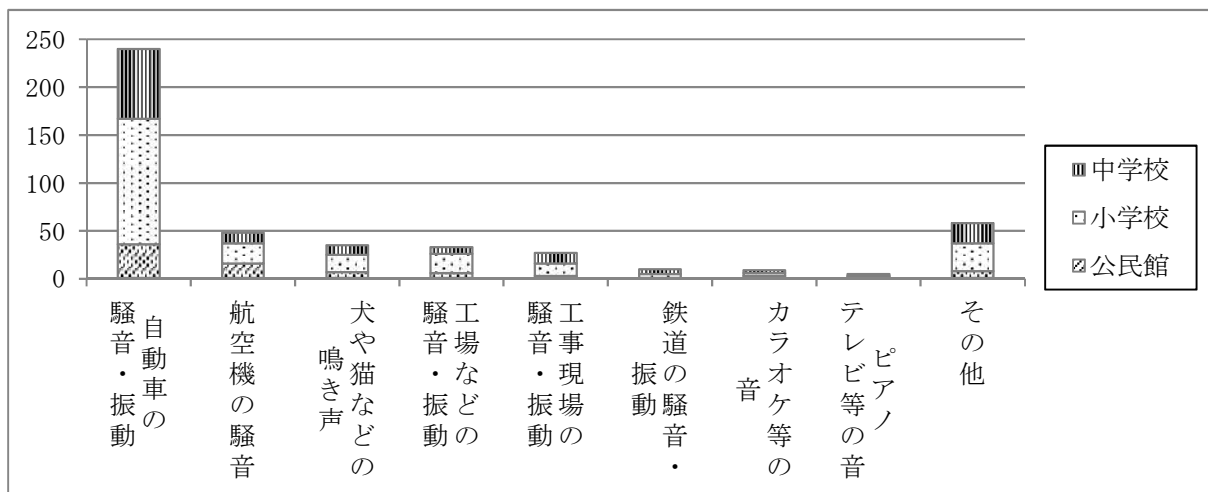
(図9-3) 不満の原因《河川や湖などの水のきれいさ》

(単位：人)



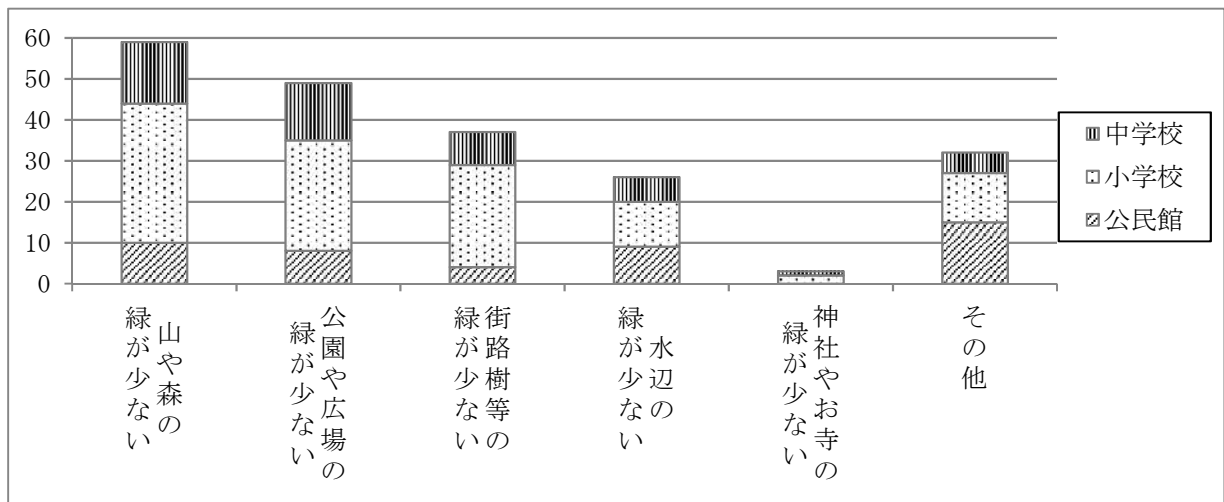
(図9-4) 不満の原因《環境の静かさ(騒音・振動)》

(単位：人)



(図 9-5) 不満の原因《緑の豊かさ》

(単位:人)



「その他」の回答は主に次のようなものがあった。

【空気のさわやかさ】

- ・ 近所で行っている野焼きのにおいと煙が迷惑である。

【河川や湖などの水のきれいさ】

- ・ 三島湖が濁っており、枯葉や枝木が散乱している。
- ・ 鯉の異常繁殖が見受けられる。
- ・ 河川・湖沼の周辺に、ホテルを見かけなくなった。

【環境の静かさ（騒音・振動）】

- ・ アパートの乱立に伴う生活騒音、コンビニの夜間営業及び飲食店の騒音がする。

【緑の豊かさ】

- ・ 山林等の樹木が手入れされておらず、台風等に伴い枝が折れるなど、危険である。
- ・ 山砂採取で山がなくなってしまうのは、残念である。また、山砂採取場跡地の緑化が進んでいない。

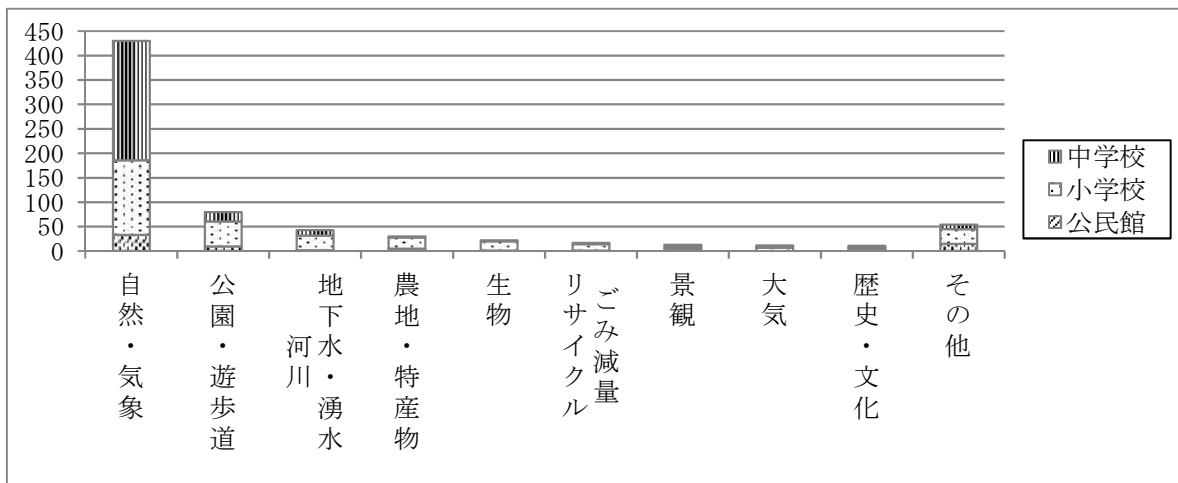
(10) 君津市の環境について、自慢に思うこと、大切にしたいところ、子どもたちに残したいもの【設問10】

「自然・気象」など項目ごとに内容を分類の上、項目ごとの回答数を図10に、その中から代表的な意見を表6に示す。なお、複数の項目に重複する回答は、最も関連のある項目に分類した。

全体を通して、豊かな自然環境に関することを挙げる人が際立って多かったが、これに関連して、宅地開発、廃棄物の最終処分及び山砂採取について心配する意見があった。また、充実した公園、遊歩道や野生生物（ホタル等）に出会えること、豊富な湧水、おいしい地下水及びきれいな河川について評価している意見も多く寄せられた。

(図10) 項目ごとの回答数

(単位：件)



(表6) 代表的な意見

項 目	内 容
自然・気象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 君津市は、東京湾に面している地域は工業地帯があるが、郊外へ行くと緑豊かな山林や、澄んだ水源もある。このような自然環境を大切にしていきたい。 ・ 近くにこれだけの自然があるというのは、子供を育てる上でとても良い。 ・ 緑の多い環境であることは、上空からよくわかるが、手入れの行き届かない荒れた山々が目立ち、残念である。山々を気持ちの良い里山としていければ、次世代の子供達に残せる遺産になる。
公園・遊歩道	<ul style="list-style-type: none"> ・ 春には桜が咲き、自然とふれあえる公園がいくつもあることが自慢であり、今後も皆で大切にし、子供たちに残したい。 ・ 内みのわ運動公園の緑には癒されている。子供が小さい頃には遊具でもたくさん遊んだ。四季を感じられる素敵な公園だと思う。
地下水 湧水・河川	<ul style="list-style-type: none"> ・ 久留里や小糸などの井戸から豊かなおいしい水が湧き出ており、それを利用した花やお酒、多種の野菜が手に入る。 ・ 亀山にはダムがあり、久留里にはきれいな水がある。君津市は水源が豊かである。
農地・特産物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業に適した土地なので、有害鳥獣による被害をなくし、農地を子供たちに引き継ぎたい。 ・ 整備された水田の風景や、農作物の出荷量が多い所を残したい。 ・ 工場のイメージが強いが、緑が豊かで、農作物や特産物であるカラーの花があることは素晴らしい。
生 物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最近の小学校では、ビオトープによる自然学習があまり盛んではないように思う。 ・ 三舟山など、初夏にホタルを見ることが出来る場所がある。 ・ 外来種ではない日本タンポポを、近所で見かける。アナグマがエサを食べに来ているのも見かける。
ごみ減量・ リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミゼロ運動など、環境美化に力を入れている。大人がお手本となり、子供たちに伝えていけたら良い。 ・ 住宅街の空き地等に不法投棄が少ない。住民がルールやマナーを守っている。
景 観	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校などが駅に花を植えたり、公園をいつも清掃しているボランティアの方がいる。 ・ ダムが何箇所もあり、初めて見る風景なので美しい。 ・ サイクリング道路から見える景色を自慢に思う。春は桜、冬は富士山も見え、人も多過ぎず、素敵な場所である。
大 気	<ul style="list-style-type: none"> ・ とても空気がきれいなので、それを維持してほしい。 ・ 星がきれいに見える。この星空はずっと残してほしい。

歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境に合わせた地域文化・歴史（上総掘り、川廻しなど）がある。 ・ 地域にある古い建造物、神社や寺、城などを大切に残したい。君津市は広く、自然環境もその地域によって様々であるが、子供が自慢できるような特色のある地域にしたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域の環境美化は自分たちで守る」との住民一人一人の意識が大切であり、微力ではあるが、心掛けていきたい。

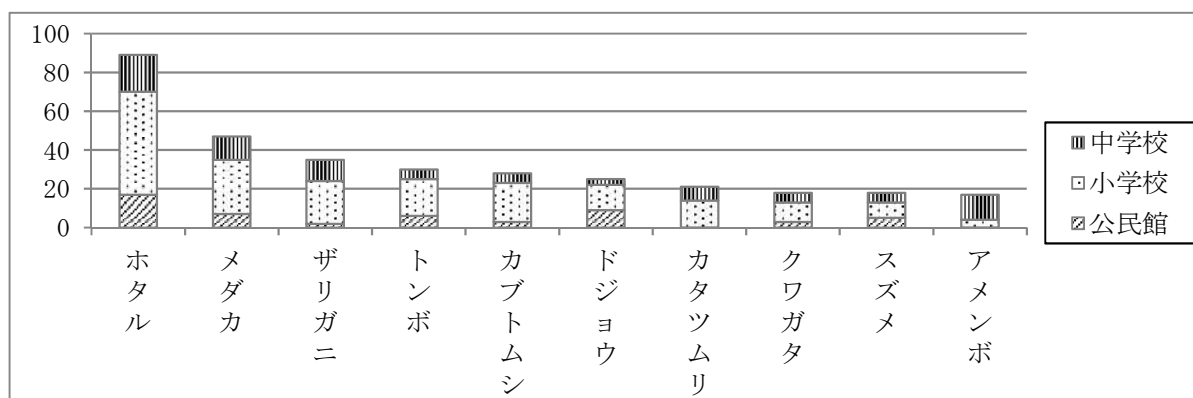
(11) 変化のあった動植物【設問 1 1】

最近見かけなくなった動植物、見かけるようになった動植物について、上位 10 位までを図 11-1~4 に示す。

最近見かけなくなった動物は「ホタル」が最も多く、全ての地域から回答があった。次いで「メダカ」、「ザリガニ」が続いた。植物は「タンポポ」が最も多く、次いで「ツクシ」、「ナデシコ」が続いた。

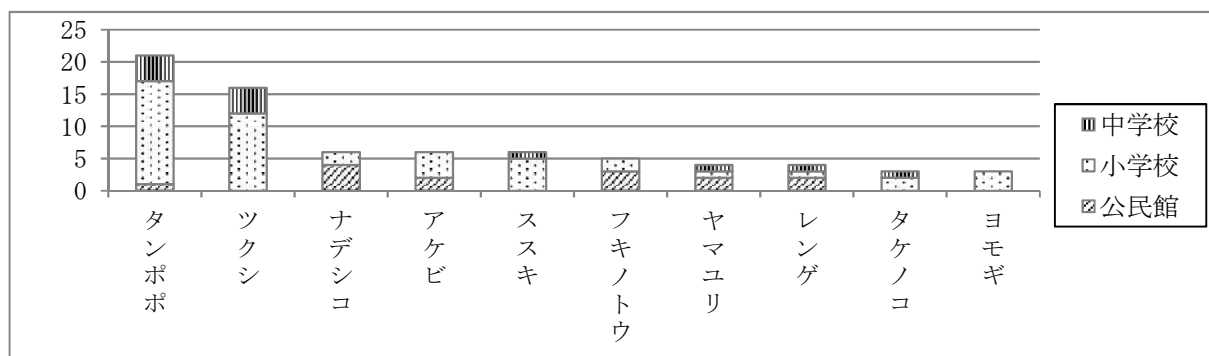
(図 11-1) 最近見かけなくなった動物

(単位：件)



(図 11-2) 最近見かけなくなった植物

(単位：件)

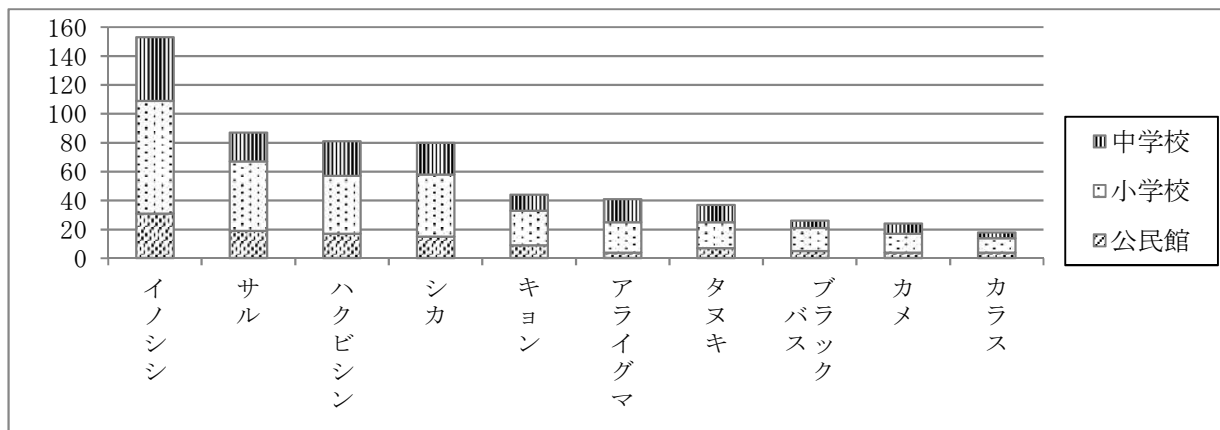


最近見かけるようになった動物は「イノシシ」が最も多く、次いで「サル」「ハクビシン」が続き、本市における有害鳥獣被害に挙げられる個体が占め、どの地域でも確認されていることが分かった。

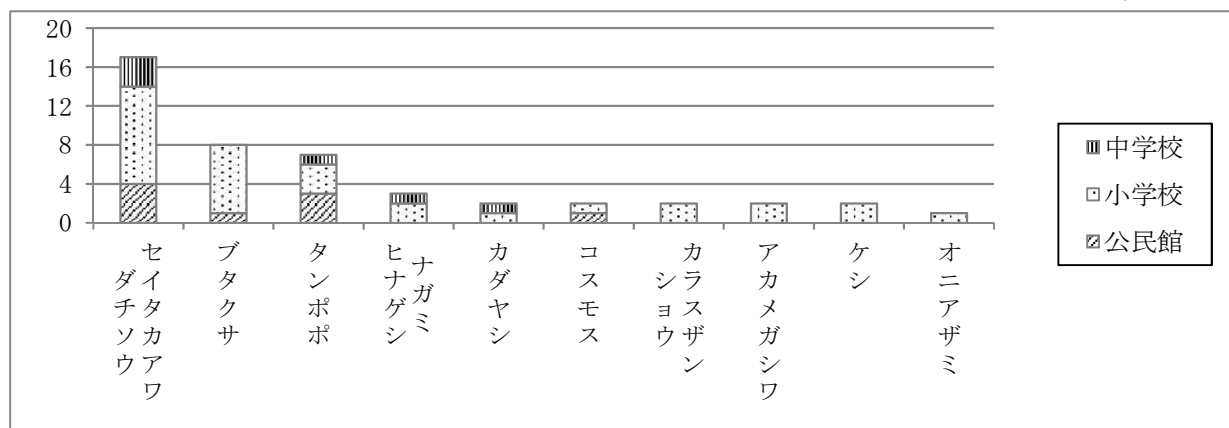
植物は「セイタカアワダチソウ」が最も多く、次いで「ブタクサ」、「タンポポ」

が続いた。「セイタカアワダチソウ」や「ブタクサ」は、ともに北アメリカ原産の種であり、これらは自然に分布する地域から移動した先で繁殖する外来生物である。「タンポポ」についても「セイヨウタンポポ」との回答であったため、本市においても外来生物による生態系への影響が見られている。

(図 11-3) 最近見かけるようになった動物 (単位：件)



(図 11-4) 最近見かけるようになった植物 (単位：件)



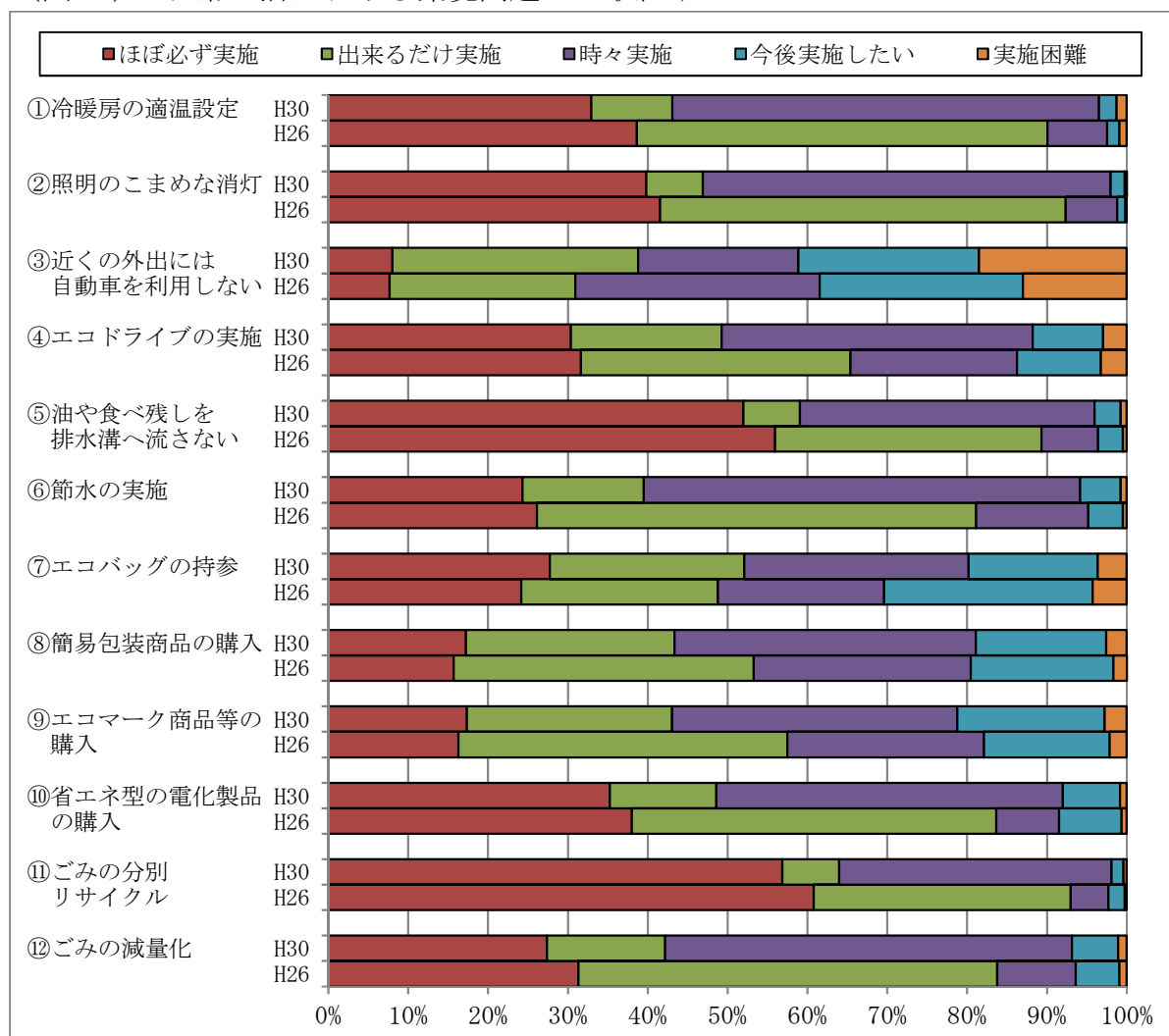
(12) 日常生活における環境問題への取組み【設問12】

日常生活における環境問題への取組みの実施状況について、前回と今回の調査結果を図12に示す。

12項目の取組みに対し、「ほぼ必ず実施」は横ばいであった。しかしながら、「出来るだけ実施」が10項目の取組みで前回調査時を下回り、一方で「時々実施」が前回は上回ったことから、全体として取組みが鈍化している。特に、「冷暖房は適正な温度に設定する」、「部屋の照明などをこまめに消す」、「節水に努めている」の3項目については、「ほぼ必ず実施」と「出来るだけ実施」の合計が半減した。

これらの要因として、取組内容は以前から実施され一定の理解は進んでいるが、東日本大震災による電力危機に対する節電の要請など、市民に広く環境配慮活動を意識させる出来事から一定の期間が経過したため、取組みに対する意識が希薄したものと考えられる。

(図12) 日常生活における環境問題への取組み



(13) 君津市の環境について、かなり気になる（改善すべき）こと【設問13】
自由回答の中から、項目ごとに内容を分類した。

《大気汚染・化学物質》

- ・ 臨海部の工場からのばい煙や粉じんが車や洗濯物に付くので、改善してほしい。
- ・ 住宅地なのに外で何かを燃やしていて、洗濯物が干せない。
- ・ 他市から君津市に引っ越して来た時、夏場の光化学スモッグ注意報の多さに驚いた。注意報の回数や大気中の化学物質の量に変化はあるのか、現状や対策について知りたい。

《不法投棄及びごみ処理》

- ・ 幹線道路沿いやサイクリング道路脇の川岸の法面などに、ごみが散乱している。
- ・ ごみの分別への理解が徹底されていないため、ごみステーションの当番がごみを持ち帰り、分別をやり直している。
- ・ 公園が可燃ごみの収集場所になっているが、地域住民でない人が通りすがりにごみを出し、可燃のごみ袋の中にビールの空き缶やビンなどが入れられている。
- ・ 資源ごみステーションにもかかわらず、分別が徹底されていない。

《自然保護》

- ・ 山砂採取による環境の変化（土砂崩れ、地下水の変化、CO₂増加、動物を含めた生態系のバランスが崩れるおそれ）が心配である。

《その他》

- ・ 他県では、メガソーラー使用後のパネル等の処理や森林破壊の事例など問題が発生しており、君津市においても心配である。

4 事業者用における集計結果

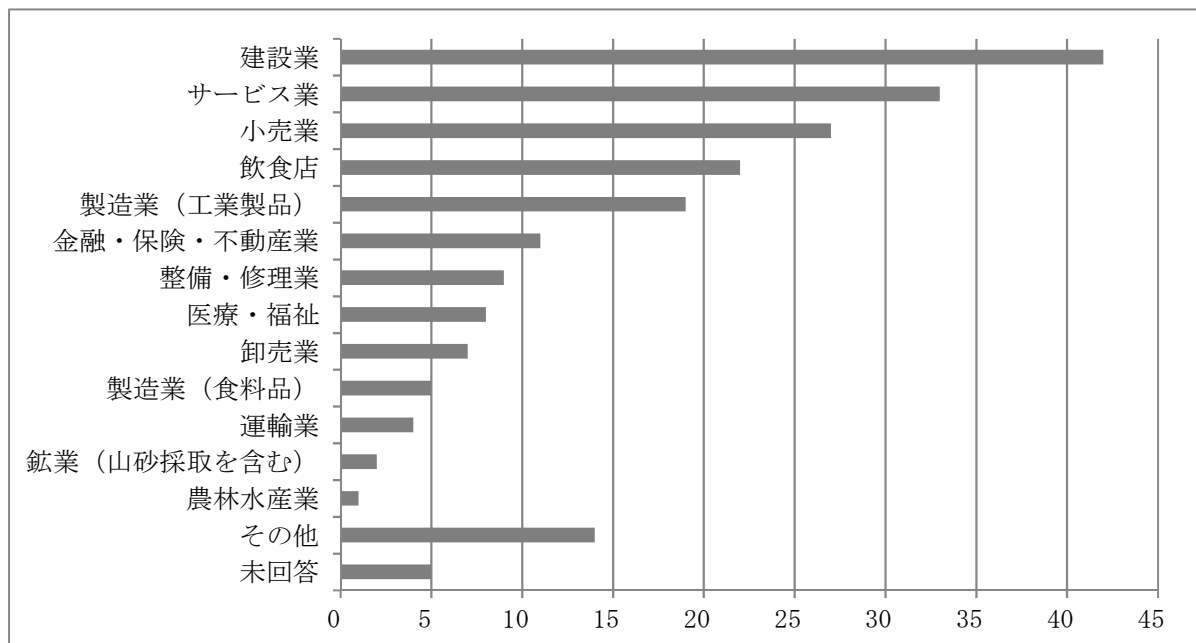
(1) 産業分類【設問1】

産業分類について、図13に示す。

「建設業」との回答が最も多く、次いで「サービス業」、「小売業」であった。

(図13) 産業分類

(単位：事業者)



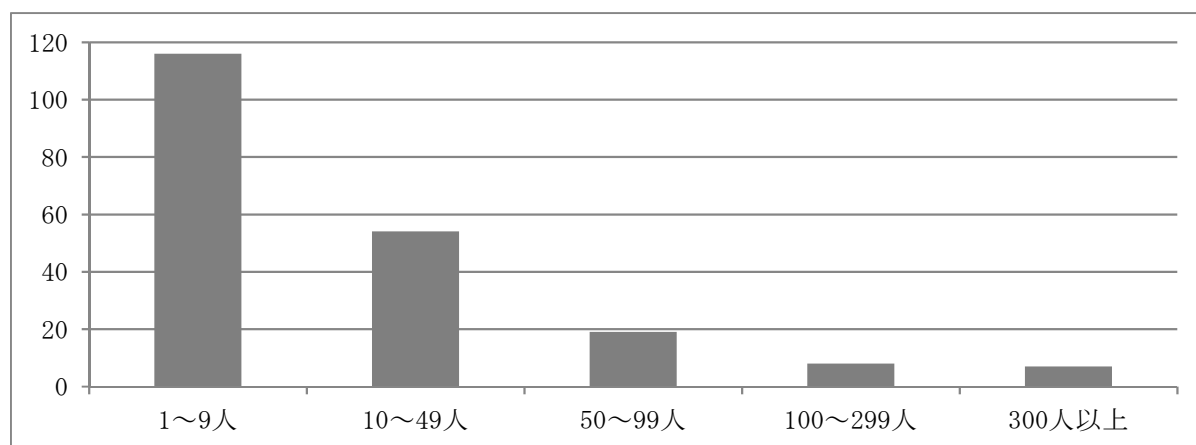
(2) 従業員数【設問2】

従業員数について、図14に示す。

「1～9人」との回答が最も多く、次いで「10～49人」であった。

(図14) 従業員数

(単位：事業者)



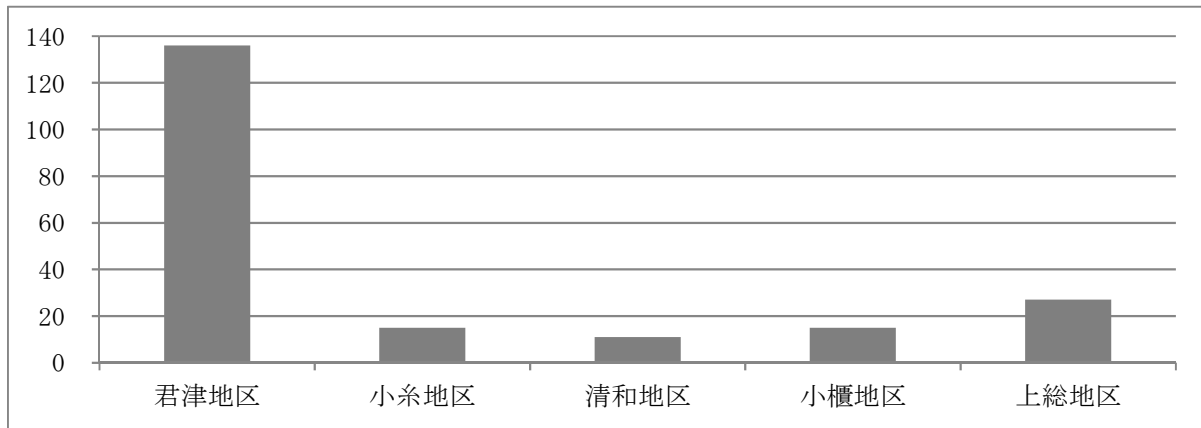
(3) 事業所の所在地【設問3】

事業所の所在地について、図15に示す。

君津地区との回答が最も多く、次いで上総地区であった。

(図15) 事業所の所在地

(単位：事業者)



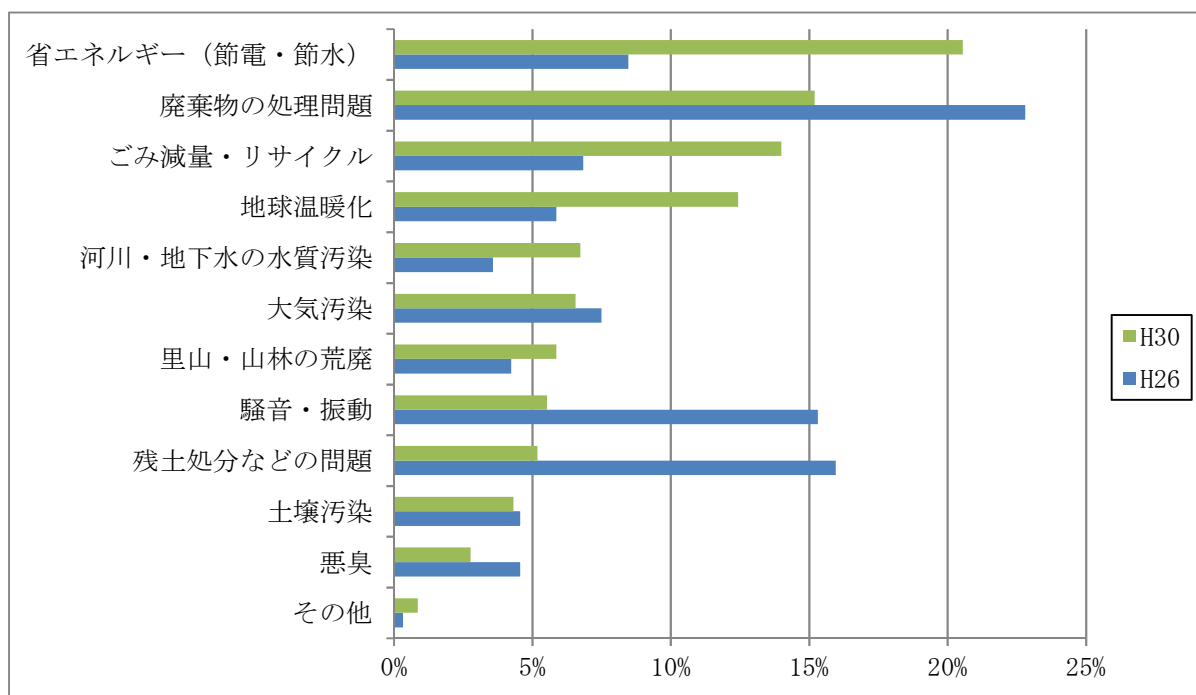
(4) 関心のある環境問題【設問4～5】

事業者として、関心のある環境問題の前回と今回調査における割合を図16に示す。

「ごみ減量・リサイクル」、「地球温暖化」については、前回調査から約5ポイント程度上昇し、「省エネルギー（節電・節水）」は約15ポイントも上昇した。要因としては、設問21と22の結果から、省エネルギーやリサイクルはコスト削減につながる事が考えられる。

一方で、廃棄物の不法投棄や産業廃棄物の最終処分場などに係る「廃棄物の処理問題」については、前回調査から約7ポイント減少し、「騒音・振動」、「残土処分などの問題」については、約10ポイントも減少した。残土処分にあつては、平成25年から施行されている市残土条例による規制強化の効果と推察される。

(図16) 関心のある環境問題（複数回答）



(5) 環境問題への取組み【設問6～20】

事業者における環境問題への取組みについて、前回と今回調査における実施状況を図17、LED照明を導入している場合のLED化率を図18に示す。

全体としては、前回調査と比較してもほぼ横ばいとなっているが、「事業所の排水や騒音、廃棄物などに対して、法的規制以上の配慮を独自に設けている。」については、「あてはまる」、「ややあてはまる」が倍増して約9割を占めており、積極的な取組みが認められる。

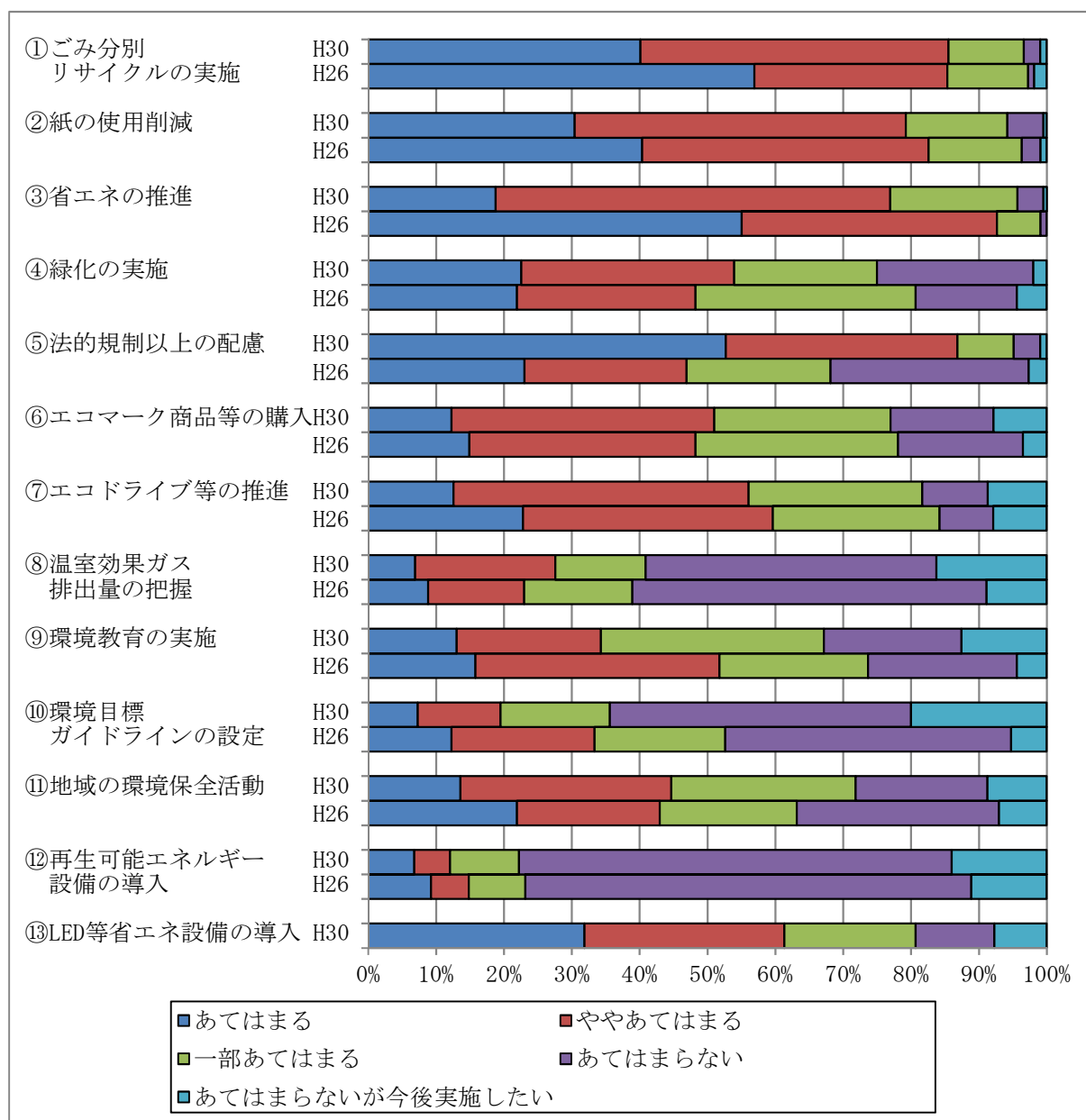
しかしながら、「ごみ分別・リサイクルの実施」、「省エネルギーの推進」などのその他の項目については、「あてはまる」が減少し、取組みに対する意識がや

や薄れていると考えられる。

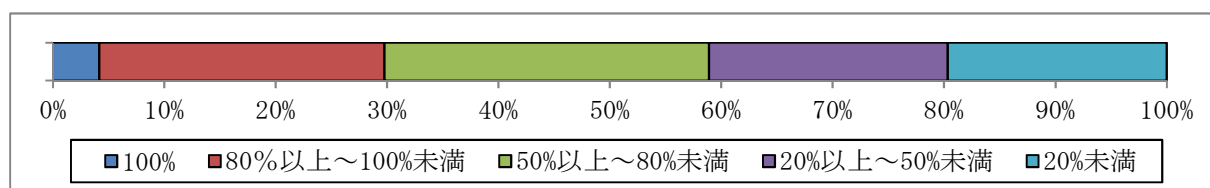
要因としては、設問23と24の結果から、費用がかかる、手間や時間がかかる、ノウハウが不足していることが挙げられる。

なお、事業所のLED照明の導入状況については、導入している事業所の約6割で照明の半数以上をLED化していることが分かった。

(図17) 環境問題への取組み



(図18) LED照明を導入している場合のLED化率



「設問 2 0 その他」の回答は主に次のようなものがあった。

【大気汚染】

- ・ ばい煙処理施設により、ばい煙量 (SOx、NOx、ばいじん) の削減に努めている。

【廃棄物処理】

- ・ 廃棄物の適正処理とリサイクル率の向上に努めている。

【環境美化】

- ・ 事務所脇の市道の清掃を行っている。汚れていると、休日にゴミを捨てる人がいるため、落ち葉や草には気を付けている。

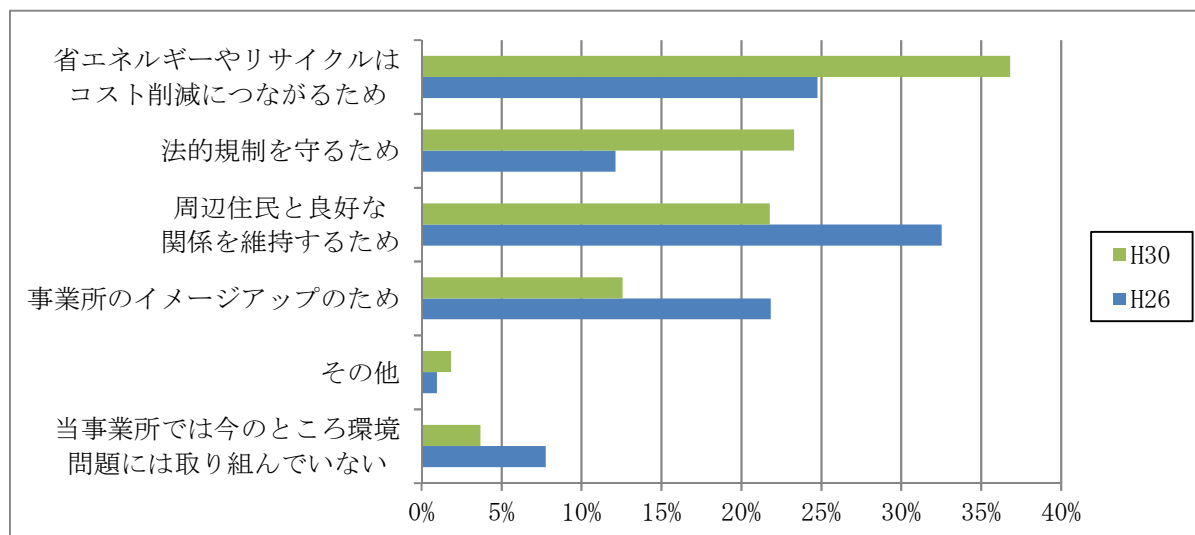
【地球温暖化対策】

- ・ 燃料 (ガソリン、軽油及び灯油)、LP ガス並びに上下水道の使用量、一般廃棄物の排出量などを毎月集計し、エコアクション 2 1 の取組みを実施している。

(6) 環境問題に取り組む理由【設問 2 1～2 2】

事業者が環境問題に取り組む理由の前回と今回の調査における回答割合を図 19 に示す。前回の調査では「周辺住民と良好な関係を維持するため」が最も多く、次いで「省エネルギーやリサイクルはコスト削減につながるため」の回答が多かったが、今回は「省エネルギーやリサイクルはコスト削減につながるため」が最も多く、次いで「法的規制を守るため」の回答が多かった。

(図 19) 環境問題に取り組む理由

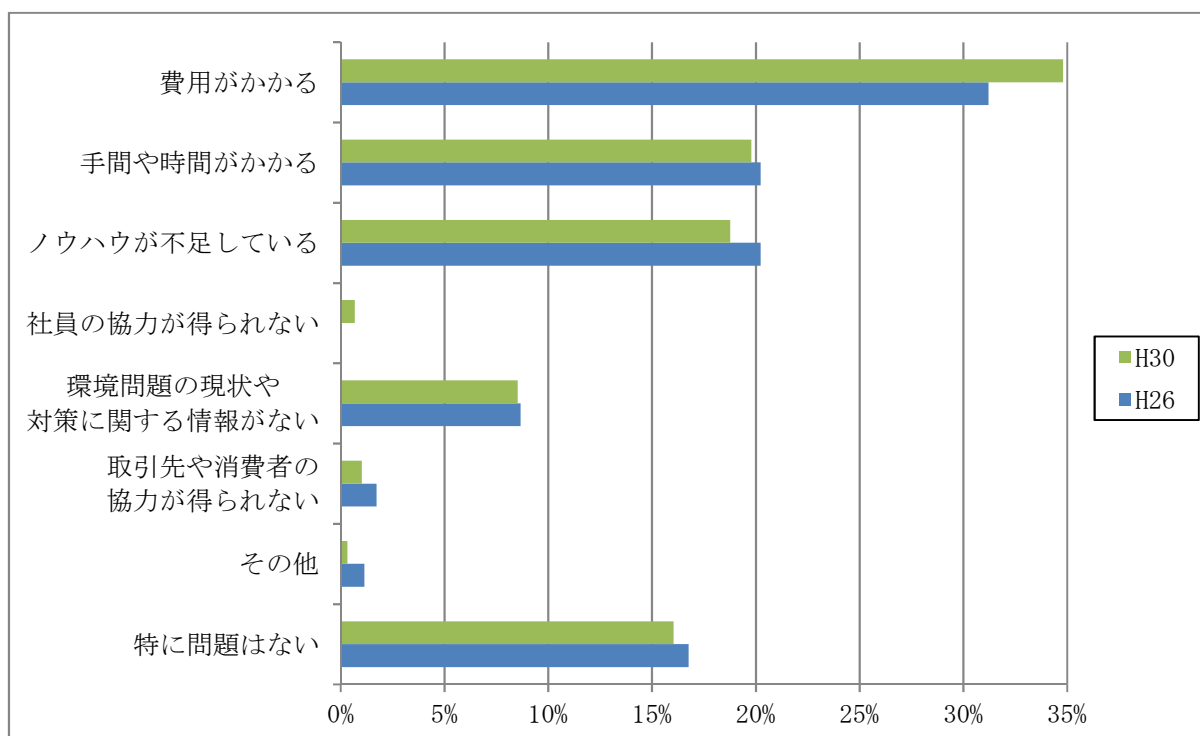


(7) 環境問題に取り組む際の問題と取り組めない理由【設問 2 3～2 4】

環境問題に取り組む際の問題と取り組めない理由の回答割合を図 20 に示す。

前回と同様に今回においても「費用がかかる」が最も多く、次いで「手間や時間がかかる」といった事業者のコストを指摘したものが上位を占めた。一方で、「ノウハウが不足している」についてはセミナーや講習会への参加、また「環境問題の現状や対策に関する情報がない」については、行政からの情報発信が重要と考えられる。

(図 20) 環境問題に取り組む際の問題及び取り組めない理由



(8) 環境問題に取り組むにあたり、行政に期待する施策【設問 2 5】

《地下水》

- ・ 広大な地下水かん養域を抱え、良質で豊富な地下水を十分に使用せずに東京湾に流出させていると思う。この地下水を工場事業場も含めた市民が有効に利用できるように整備してもらいたい。

《一般廃棄物の処理》

- ・ 事業活動に伴い、日々、事業系一般廃棄物が排出されることから、安定して確実に処理できるごみ処理対策をお願いしたい。

《不法投棄及びごみ処理》

- ・ 廃棄物や残土の不法投棄について、パトロールなどを強化するとともに、県や警察などと協力し、進めてほしい。

《補助金及び税制優遇措置》

- ・ 照明器具や冷暖房設備等の省エネ設備、燃費効率のよい車両を購入する際に国や市から補助金があれば、更に積極的な地球温暖化対策に取り組める。
- ・ 環境負荷の少ない機材や物品を購入した際には、税の優遇措置を行ってほしい。

《啓発活動の拡充（環境情報の提供、勉強会の開催）》

- ・ 分かりやすいポスターやパンフレットがあると、意識改革が容易になる。
- ・ 環境保全に対する取り組み等の意見交換や知識向上を目的とした、勉強会等の機会を増やしてほしい。
- ・ 市から事業者に対し、取り組むべき項目、事項ごとの目標設定を明示してほしい。

《自然保護》

- ・ 土地の開発や伐採を減らし、山林・農地等の荒廃防止及び適正利用を促進してほしい。

(9) 環境に関する意見・感想【設問26】

《大気汚染》

- ・ 臨海部の工業地帯周辺はばいじんが多く、駐車している車両に多く降り積もっている。10年前に比べれば少なくなったが、周辺住民はその影響を受けて生活していることに留意してほしい。

《水質保全》

- ・ 久留里の名水など、貴重な水資源を大切に保存・維持してほしい。
- ・ 汚水などを道路に垂れ流しにしている企業に対し、十分な指導をしてほしい。

《不法投棄及びごみ処理》

- ・ 整備が行き届いている道路や周辺は、とても気持ちが良いため、清掃活動は必要であり、公共用ごみ袋の配布、回収を行政にお願いしたい。
- ・ 不法投棄の防止のため、家屋解体等の届出や廃材処分の追跡等を行ってほしい。

《美化活動》

- ・ 街路樹や植込みの手入れを、こまめに行ってほしい。
- ・ 市が行っている街路の除草、伐採等は、地域間で差が大きいため、統一性を図ってほしい。

《その他》

- ・ 市をはじめ、工場や事業場も含めた市民の活動によって君津の環境が維持されていることに感謝している。
- ・ 太陽光発電、ごみの分別などの推進だけではなく、何が可能か、何をすべきか、徹底した議論・検討を通して目標を定め、実施することが重要である。
- ・ 専門に従事する職員の育成、職員の環境問題に対する知識の習得を期待する。

5 まとめ

市民や事業者の関心のある環境問題は、前回調査と比較すると関心度の割合に変化はあったものの、新たに大きな問題は浮かび上がらなかった。

また、ここ10年程度の環境の変化や環境に対する満足度についても、新たな課題や社会情勢の急激な変化が無かったことから、各項目の割合に大きな変化は見られなかった。

以上のことから、今回のアンケート調査の結果を踏まえた見直しは行わず、引き続き第2次計画の推進していくこととする。

なお、環境配慮活動の実施状況では、市民においては全体的に取り組みに対する意識の希薄化が見られ、事業者において、自主的な「法的規制以上の配慮」について向上が見られるものの、全体的に活動が鈍化していることから、取り組みが低下しつつある活動については、積極的な取り組みに向けた動機付けとなるよう、今後とも広報やホームページ等で啓発することとしたい。